

新サービス

「墓参り」スマホでいつでもどこでも

清月記(株)が無料アプリ「バーチャル霊園」を開発

株清月記(菅原裕典社長)

は、スマートフォン内に墓を設けて故人を弔う無料アプリ「バーチャル霊園」を伊藤忠インタラクティブ(東京)と共同開発、配信を開始した。少子化や核家族化が進む中で、「遠方の墓だからなかなか通えない」「墓じまいや散骨をしたが故人を供養する場所がほしい」「ペットとの思い

出をいつでも大切にしたい」といった多様なニーズに応える。菅原社長は「お墓が遠い。多忙でなかなかできないなど、お墓参りが負担になっている中で、スマホの中にある大切な写真を見て心の会話をしていただけ」と語っている。

アプリの主な特徴は、お墓の作成、お祈り音楽の再

生、祈りの演出、家族や友人との画像、動画の共有機能、メッセージ投稿で思い出の記録、ペット・著名人のほか、生前に自分の墓も登録できる。清月記はアプリで墓や供養に関するお知らせを発信、自社サービスの利用につなげる。

アプリはiOSとAndroidに対応する。25年12月に提供をスタート、今

年1月末で50代を中心に500件以上の登録がある。1月26日に行われた発表会と体験会が青葉区の仙台迎賓館 斎苑で行われ、同社のモニター会員ら200人が参加、体験会では、アプリのダウンロードから操作方法など、同社社員が丁寧に説明、対応した。

説明会に参加した50代の医療関係者の女性は「自分のお墓を作って、この中から自分史を書きこみたい。このアプリのおかげで、これからはいきいきと生きていける」と語っていた。



「バーチャル霊園」説明会で開発趣旨を語る菅原社長。下は実際の体験会の模様。同社社員がひとり一人対応した



**社長のための**  
ChatGPT 経営入門

「生成AIをどう生かせばいいのかわからない」。そんな経営層のための教科書ともなる「社長のためのChatGPT経営入門」が2月末にPHPから発刊された。

著者は、塩釜市のTAKAYAMA YAMA代表取締役の高山智

「生成AIをどう生かせばいいのかわからない」。そんな経営層のための教科書ともなる「社長のためのChatGPT経営入門」が2月末にPHPから発刊された。

著者は、塩釜市のTAKAYAMA YAMA代表取締役の高山智

この1冊だけでいい塩釜のTAKAYAMA 高山智社長初の商業出版

発行はPHP。

「社長のためのChatGPT経営入門」発刊

社氏。

① ChatGPTを「右腕」として育てる具体的手法  
② 経営に役立つ35の技法(採用、営業、財務、戦略など)  
③ 組織に「浸透」させる技術  
④ アーチーブメントテクノロジー(目標達成の技術)×選択理論について、これまでの文具店からDXカンパニーへ事業転換を果たした経験と実績などを踏まえた経営者による経営者のための実践書として、注目される一冊だ。

建築・不動産・土地活用のことなら

TAISEI HOUSING 住まいるライフ

株式会社 大成ハウジング

アパート・マンションをトータルプロデュースします!

■本店/仙台市若林区六丁目字左近堀15  
■仙台西支店/仙台市青葉区栗生7丁目4-3

TEL.022-287-3226

仙台賃貸.jp 検索